

2 大竹市の現況と課題

2-1 大竹市の現況

(1) 現況の整理

1) 人口

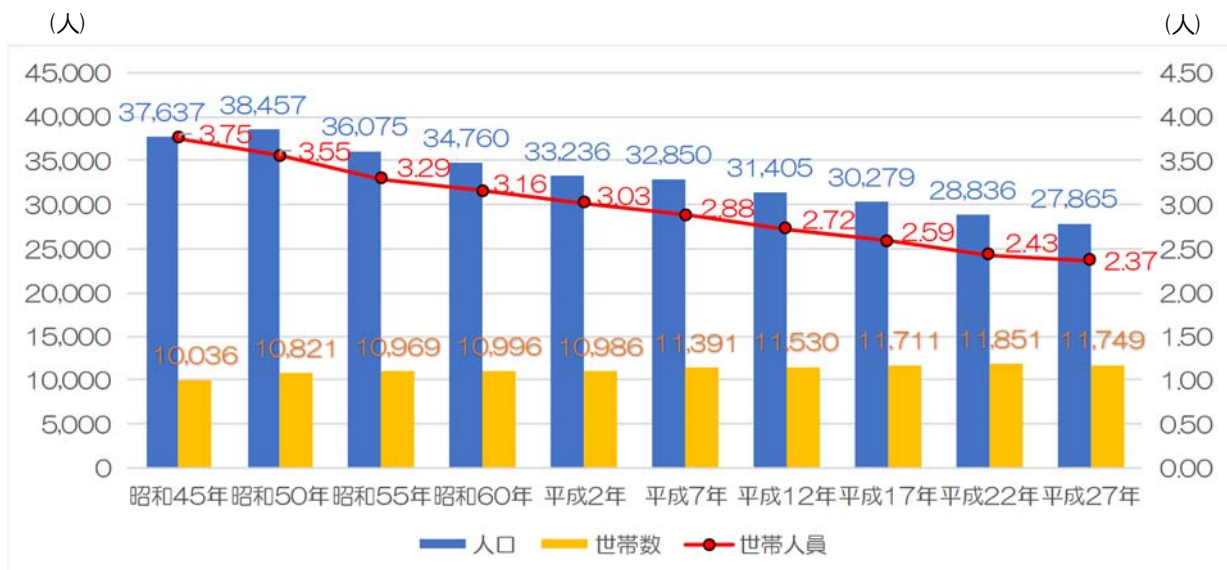
- 人口・世帯人員の減少が続いています。
- 年少人口（15歳未満）・生産年齢人口（15歳～64歳）割合は減少傾向ですが、老年人口（65歳以上）割合は年々増加傾向にあり、平成27年(2015年)では33.4%と非常に高くなっています。
- 自然動態・社会動態ともに減少傾向にあります。
- 夜間人口より昼間人口の方が多くなっています。

①人口・世帯数・世帯人員の推移

本市の人口は、昭和50年(1975年)の38,457人をピークに年々減少傾向にあります。

世帯数は微増傾向で、平成27年(2015年)では11,749世帯となっています。

1世帯あたりの人員は、昭和45年(1970年)の3.75人/世帯から年々減少しており、平成27年(2015年)は2.37人/世帯となっています。



(資料：国勢調査)

図 人口・世帯・世帯人員の推移



2 大竹市の現況と課題

2

大竹市の現況と課題

②年齢3区分構成比の推移

本市の年齢3区分構成比推移をみると、老年人口が年々増加傾向にあり、その他の階層は、昭和50年(1975年)をピークに減少傾向にあることがわかります。

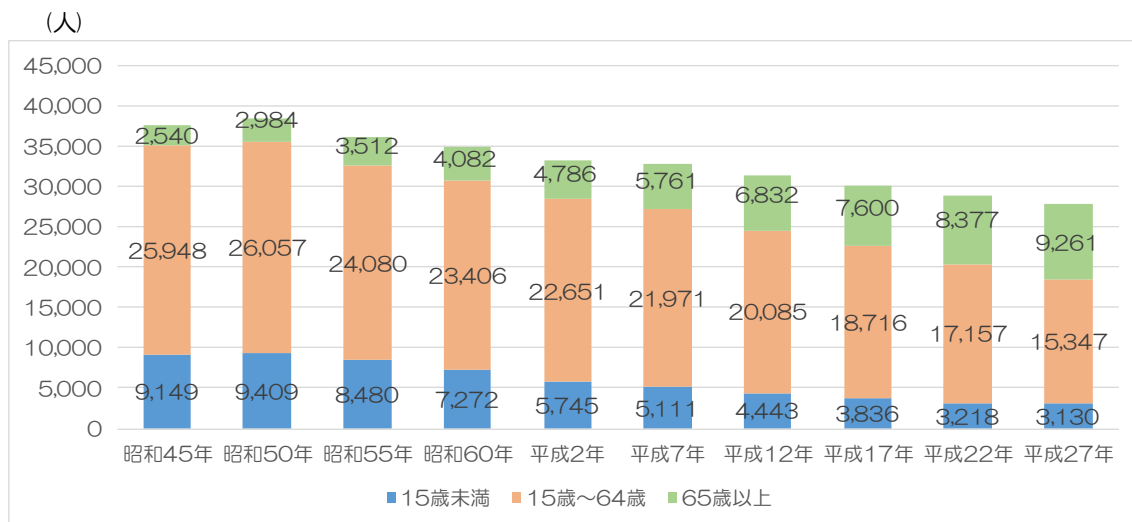
老年人口の割合は、昭和45年(1970年)では6.7%であったのが、平成27年(2015年)では33.4%であり、非常に高い割合となっています。一方で、年少人口の割合は、平成2年(1990年)までは老年人口の割合を超えていましたが、平成7年(1995年)では逆転し、老年人口の割合が17.5%、年少人口の割合が15.6%となり、その差は年々広がっています。

表 年齢3区分構成比の推移

区分	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
老年人口 (65歳以上)	6.7%	7.8%	9.7%	11.7%	14.4%	17.5%	21.8%	25.2%	29.1%	33.4%
生産年齢人口 (15歳～64歳)	68.9%	67.8%	66.8%	67.3%	68.3%	66.9%	64.0%	62.1%	59.7%	55.3%
年少人口 (15歳未満)	24.3%	24.5%	23.5%	20.9%	17.3%	15.6%	14.2%	12.7%	11.2%	11.3%

(資料：国勢調査 ※不詳を除く)

※四捨五入の関係で、合計が100にならない場合があります。



(資料：国勢調査 ※不詳を除く)

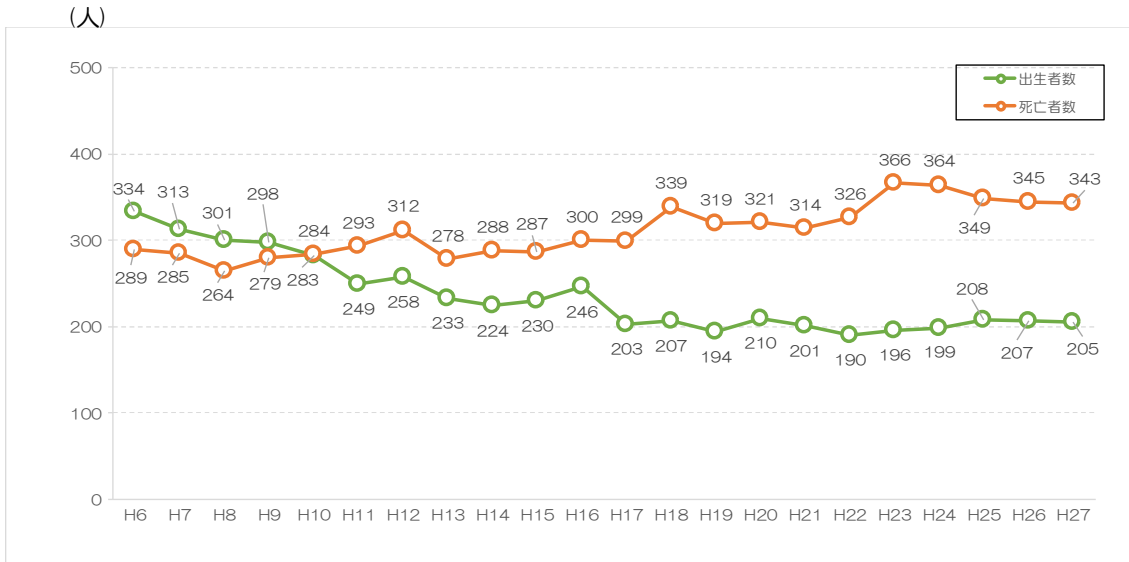
図 年齢3区分構成比の推移



③人口動態の推移

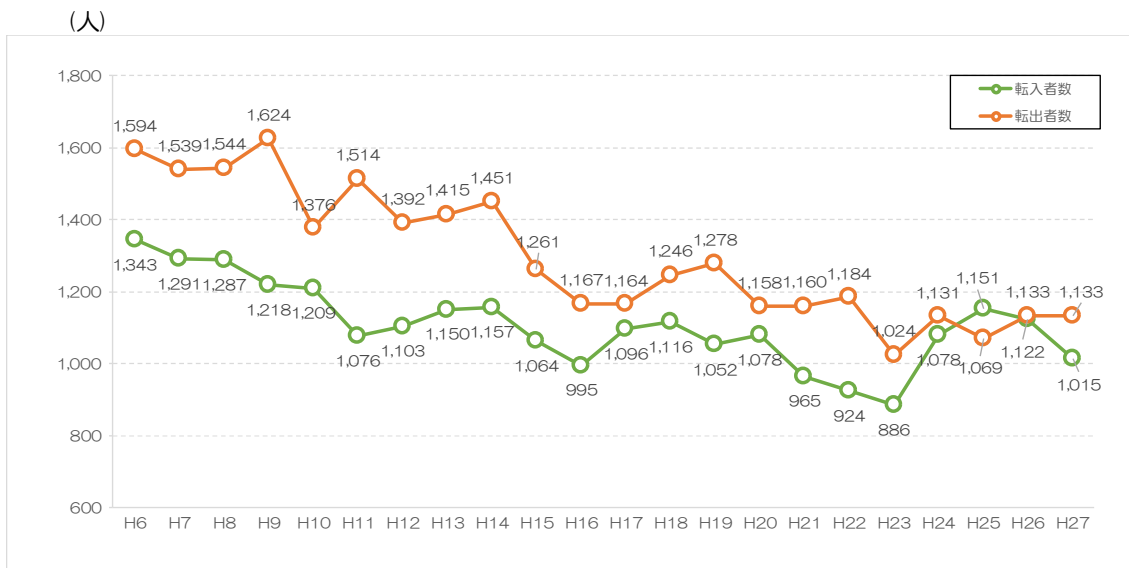
本市の人口の自然動態は、平成 11 年(1999 年)に死亡超過に転じて以降は、自然減少幅が増加しています。

社会動態は、平成 25 年(2013 年)に若干転入超過となりましたが、おおむね転出超過が続いています。



(資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査)

図 自然動態の推移



(資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査)

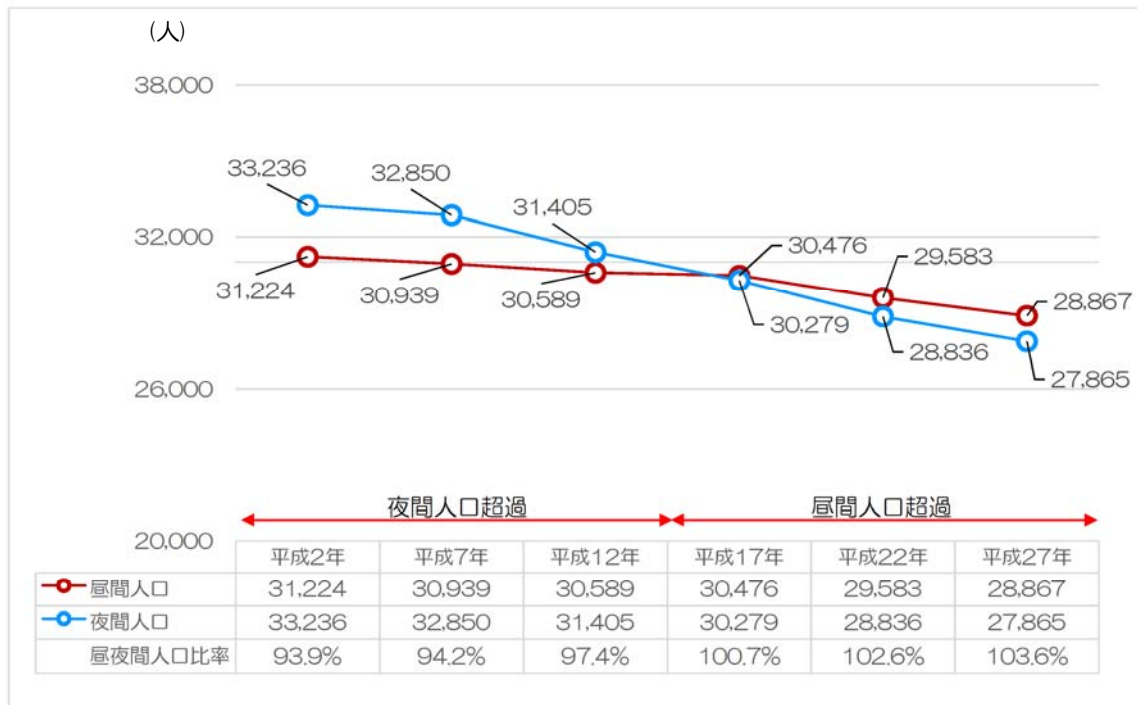
図 社会動態の推移



2 大竹市の現況と課題

④ 昼夜間人口

本市の昼夜間人口比率は、平成17年(2005年)以降、昼間人口超過となっています。また、本市に通勤している人のうち、40%以上が市外在住者となっています。



(資料：国勢調査)

図 大竹市昼夜間人口推移

表 通勤目的での流入・流出状況

■大竹市常住者の従業地

年	総数(人)	大竹市に住み、大竹市に通勤する人(人)	大竹市に住み、大竹市外に通勤する人(人)	大竹市従業者のうち、大竹市に住み、大竹市外に通勤する人の割合
平成12年	15,029	9,343	5,686	37.8%
平成17年	13,906	8,623	5,283	38.0%
平成22年	12,884	7,825	4,981	38.7%
平成27年	12,488	7,458	4,870	39.0%

■大竹市昼間従業者の常住地

年	総数(人)	大竹市に通勤し、大竹市に住んでいる人(人)	大竹市に通勤し、大竹市外に住んでいる人(人)	大竹市昼間従業者のうち、大竹市に住んでいる人の割合
平成12年	15,224	9,343	5,881	38.6%
平成17年	14,986	8,623	6,363	38.0%
平成22年	14,361	7,825	6,402	44.6%
平成27年	14,015	7,458	6,362	45.4%

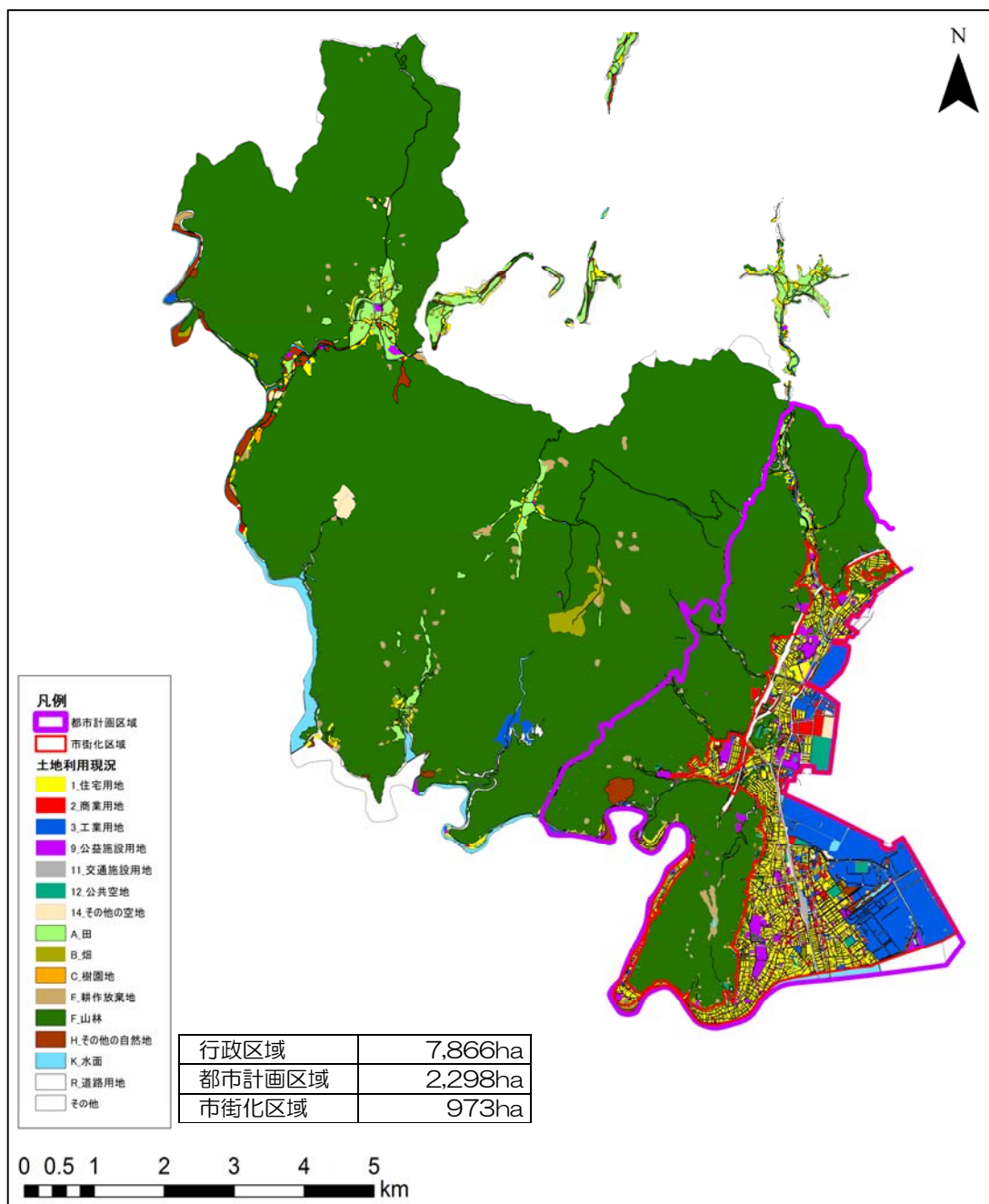
(資料：平成12年・平成22年…大竹市人口ビジョン，平成17年・平成27年…国勢調査)

※平成22年・平成27年の総数には「従業先・就業先不詳」を含む

2) 土地利用

- 都市計画区域は、本市全体のうち約 30%となっています。
- 市街化区域では、約 55%が宅地利用となっています。
- 本市の土地利用は、山林がもっとも多くの面積を占めています。

本市の行政区域は 7,866ha で、このうち都市計画区域は 2,298.2ha です。行政区域の大部分を山林が占めており平地部が少なく、このため市街化区域は沿岸部に沿って細長く形成されています。市街化区域の背後地は山々の急斜面が迫っており、地形上、新しい市街地の拡大余地は少ないと考えられます。市街化区域（973.2ha）においては約 55%が宅地利用されており、工業用地が沿岸部にまとまっています。



(資料：平成 26 年(2014 年)広島県都市計画基礎調査)

図 土地利用の現況



2 大竹市の現況と課題

3) 道路・交通

- 都市計画道路は、自動車専用道路1路線を含む計19路線を指定しています。
- 平成31年(2019年)3月時点における都市計画道路の整備率は、計画延長35,060mに対し整備済み12,999mで約37%となっています。
- 鉄道利用者は、JR大竹駅・玖波駅ともに、近年は横ばいの傾向が続いています。

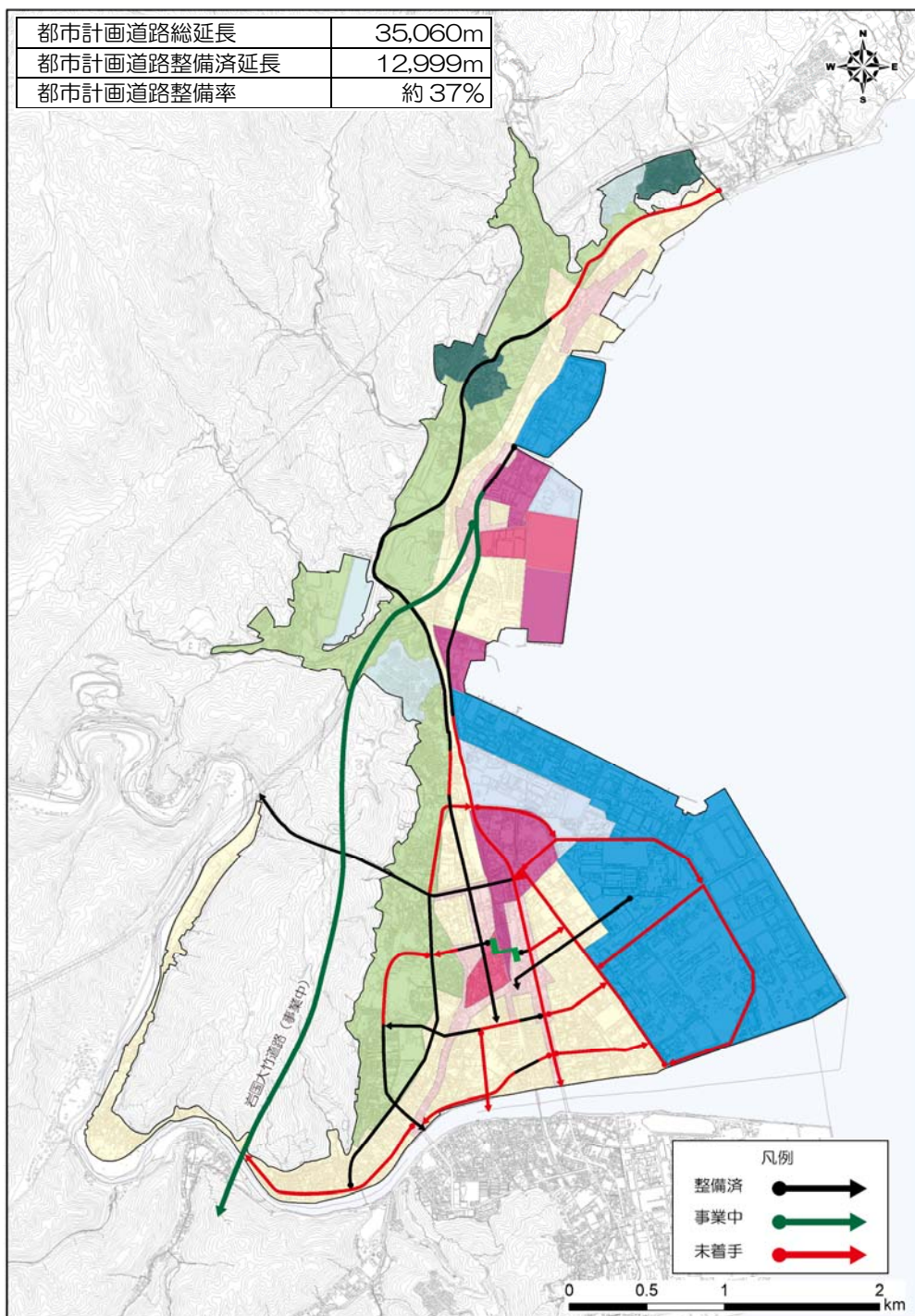


図 都市計画道路整備状況図(平成31年(2019年)3月時点)

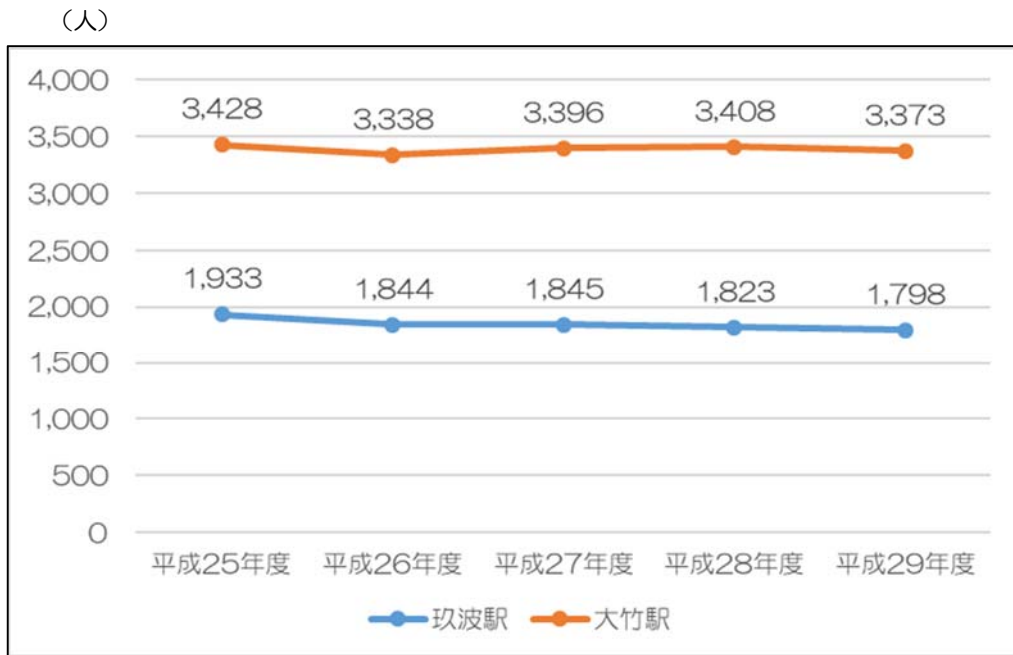


表 駅利用状況

年度	玖波駅			大竹駅		
	旅客乗車人員			旅客乗車人員		
	総数	普通乗車	定期乗車	総数	普通乗車	定期乗車
	人	人	人	人	人	人
平成25年度	1,933	601	1,332	3,428	957	2,471
平成26年度	1,844	576	1,268	3,338	937	2,401
平成27年度	1,845	573	1,272	3,396	957	2,439
平成28年度	1,823	540	1,283	3,408	943	2,465
平成29年度	1,798	531	1,267	3,373	916	2,457

(資料：大竹市統計書)

※1日あたり



(資料：大竹市統計書)

図 駅利用状況



2 大竹市の現況と課題

4) 公園

- 市内の都市公園は、58箇所が供用開始となっています。
- 晴海臨海公園は市内でもっとも大きな公園で、約12.76haの面積を有しています。
- 1人あたりの公園面積は10.3㎡であり、岩国市と同程度、廿日市市に比べると大きくなっています。

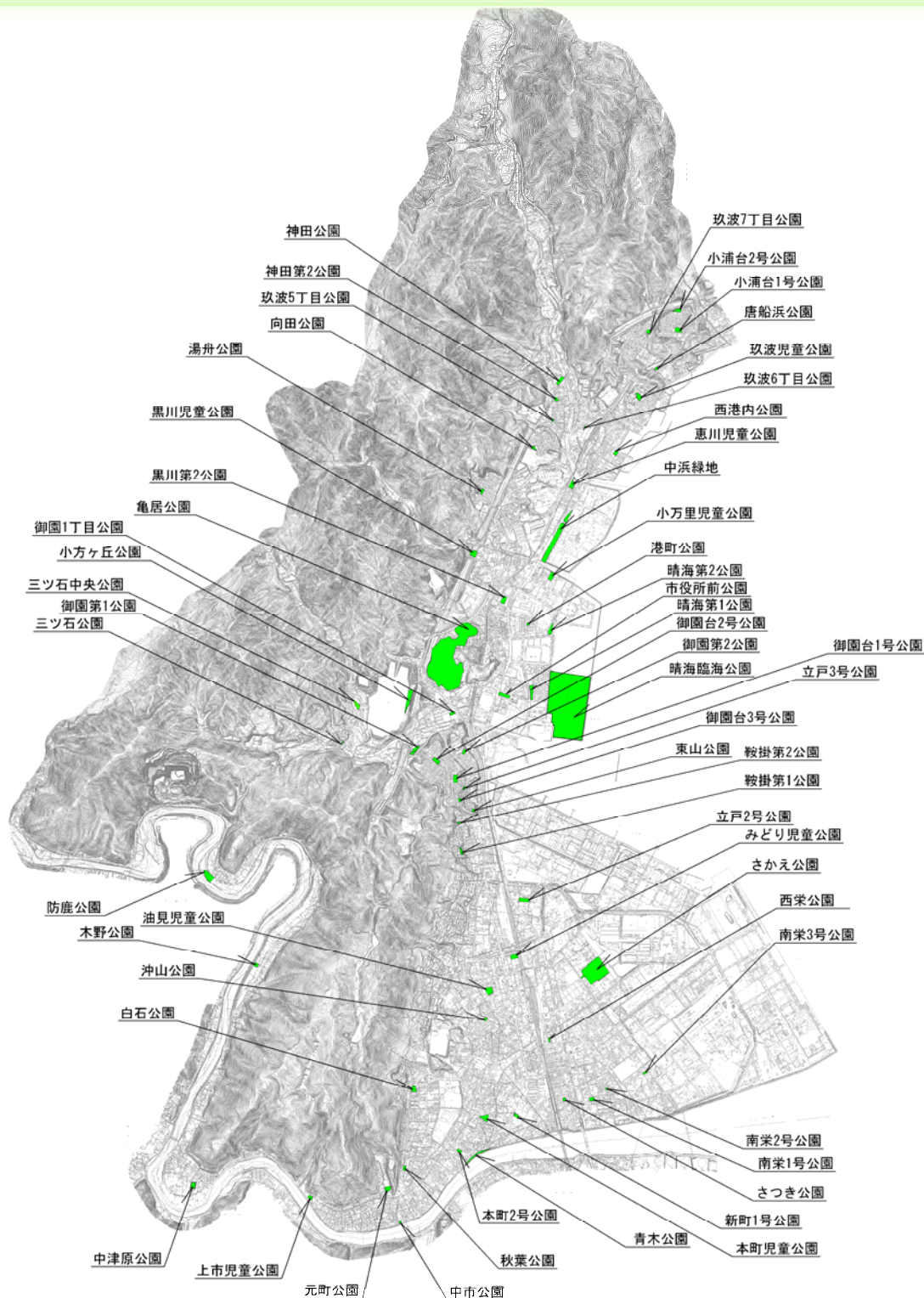


図 都市公園位置図



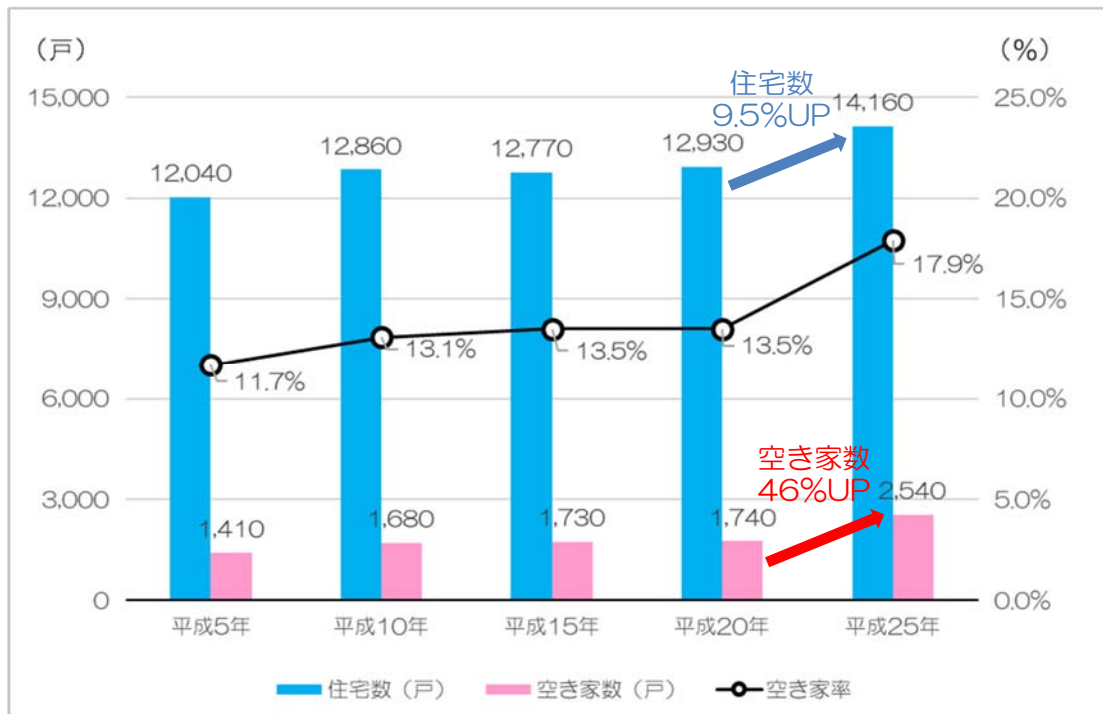
表 公園面積の周辺市町の比較

市町名	平成28年都市公園等		平成27年 人口(人)	1人あたり 面積(m ²)
	個所数	面積(m ²)		
大竹市	58	288,297	27,865	10.3
廿日市市	233	824,921	114,906	7.2
岩国市	244	1,405,023	136,757	10.3
和木町	3	316,300	6,285	50.3

(資料：公共施設状況調査(平成28年度, 総務省), 国勢調査)

5) 空き家

- 平成5年(1993年)以降, 住宅数・空き家数はともに増加傾向にあります。
- 特に空き家の増加率は顕著となっており, 平成20年(2008年)から平成25年(2013年)までの5年間では, 空き家数の増加率は46%(住宅数の増加率は9.5%)となっています。



(資料：住宅・土地統計調査)

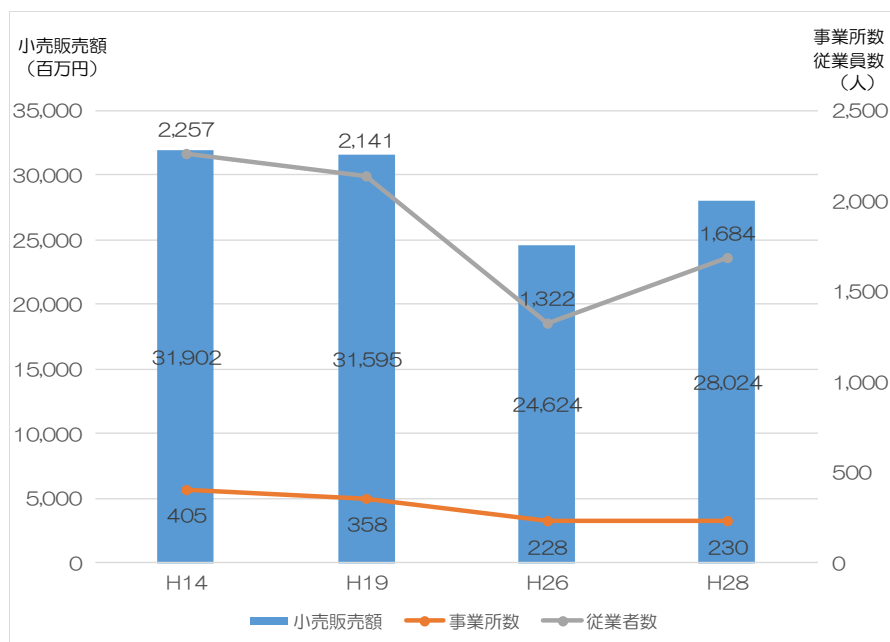
図 住宅戸数と空き家戸数の推移



2 大竹市の現況と課題

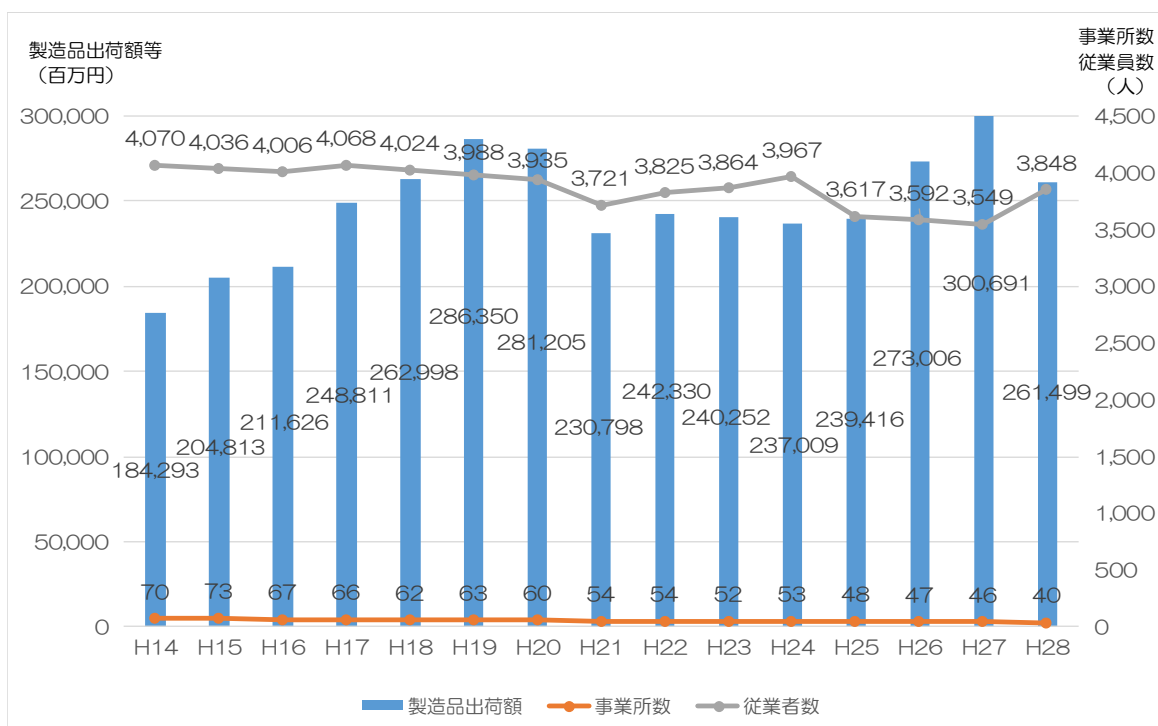
6) 産業

- 商業の小売販売額，事業所数，従業者数は減少傾向にあり，本市は製造業に特化した都市となっています。
- 瀬戸内地域で有数の臨海工業地区を有しており，工業の製造品出荷額は一時期減少したものの，近年は増加傾向にあります。



(資料：平成 14 年～26 年…各年商業統計，平成 28 年…経済センサス)

図 小売販売額・事業所数・従業者数の推移



(資料：各年工業統計)

図 製造品出荷額・事業所数・従業者数の推移



7) 下水

■本市の公共下水道の人口普及率は、平成29年度(2017年度)時点で94.7%となっています。

表 公共下水道整備状況

年度	行政区域内人口	供用区域内人口	人口普及率	下水道供用面積	下水道計画人口	処理可能水量	下水道延長施工済
	人	人	%	ha	人	m ³ /日	m
平成20年度	29,389	27,466	93.5	652	30,680	25,170	147,587
平成21年度	29,093	27,218	93.6	653	27,100	25,170	148,687
平成22年度	28,696	26,891	93.7	674	27,100	25,170	148,732
平成23年度	28,384	26,579	93.6	674	27,100	25,170	150,827
平成24年度	28,137	26,388	93.8	674	27,100	25,170	152,565
平成25年度	28,327	26,637	94.0	674	27,100	25,170	152,929
平成26年度	28,109	26,470	94.2	704	25,600	25,170	153,153
平成27年度	27,852	26,249	94.2	704	25,600	25,170	154,427
平成28年度	27,616	26,057	94.4	704	25,600	25,170	154,972
平成29年度	27,326	25,875	94.7	713	25,600	25,170	155,067

(資料：大竹市統計書)

※人口普及率＝供用区域内人口/行政区域内人口

※下水道延長施工済については、平成18年度(2006年度)の地方公営企業法の適用により、受贈財産の管渠を公共下水道事業の資産に算入



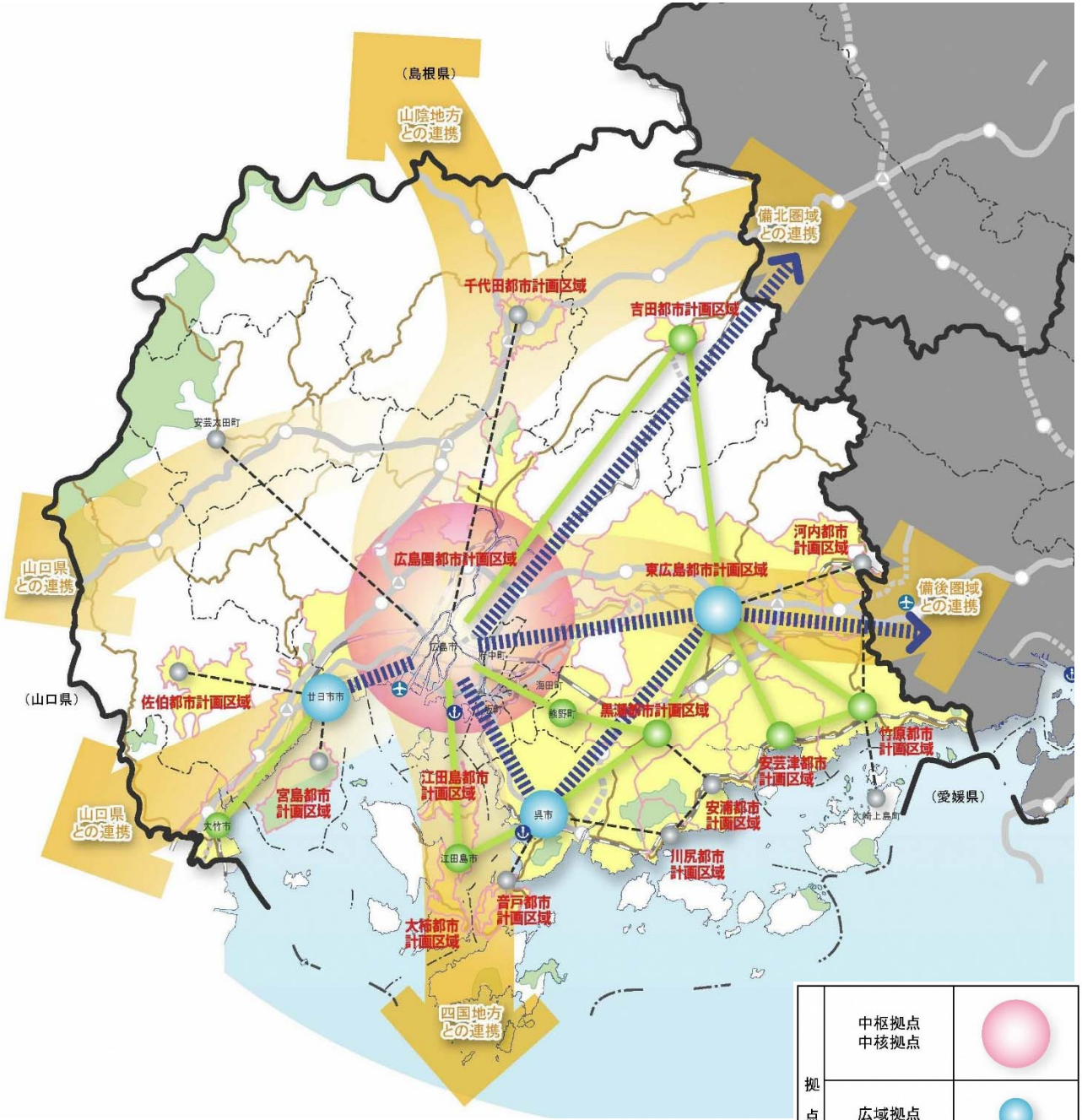
2 大竹市の現況と課題

(2) 上位・関連計画の整理

1) 広島圏都市計画区域の整備，開発保全の方針

広島圏都市計画区域の整備，開発保全の方針 平成 23 年(2011 年)9 月	
計画期間	基準年 : 平成 17 年(2005 年) 目標年次: 平成 32 年(2020 年)
広域的位置づけ	広島圏域の中心であり，圏域全体の発展を牽引する役割を持つと同時に，広島県はもとより中国地方における中枢的役割を担う広域都市計画区域
都市づくりの基本目標	<p>【区域の将来像】 「中国地方の先進的な高次都市機能を担う中枢都市圏」</p> <p>基本目標1 活力を生み出すまちづくり (区域の目標) 広島中枢拠点の役割を分担する拠点として，高次都市機能の集積・強化を図り，活力あふれるいきいきとした都市づくりを目指す</p> <p>基本目標2 持続可能なまちづくり (区域の目標) 適切な立地コントロールを通じた都市機能の集約を図るとともに，公共交通の利便性向上などを通じて，環境負荷の低減に資する都市づくりを目指す</p> <p>基本目標3 個性あふれるまちづくり (区域の目標) 都市周辺に広がる山や，海など自然環境の保全を図り，都市と自然が調和し，一体的で質の高い都市環境や都市景観の形成を図る</p> <p>基本目標4 安全で安心なまちづくり (区域の目標) 災害に強いまちづくり・ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを促進する</p> <p>基本目標5 みんなで創るまちづくり (区域の目標) NPO・ボランティア団体など多様な主体の参画と役割分担を促進するための環境整備に努める</p>

■ 広島圏都市計画区域 将来都市構造図



	整備済み	整備予定
高規格幹線道路等	———	-----
国道	———	
鉄道	—+—+—	
空港	✈	
国際拠点港湾 重要港湾	⚓	

拠点	中枢拠点 中核拠点	●
	広域拠点	●
	都市拠点	●
	地域拠点	●

中四国地域連携軸		↔
広域連携軸		
都市間連携軸		———
地域間連携軸		-----
ゾーン	都市ゾーン (都市計画区域)	■
	自然環境保全ゾーン (国立公園等)	■ ■

※上記は、具体的な位置等を規定するものではありません。



2 大竹市の現況と課題

2) 大竹市第五次総合計画 わがまちプラン

わがまちプラン 第五次大竹市総合計画 平成 23 年(2011 年)3 月

計画期間	基準年 : 平成 23 年(2011 年) 目標年次 : 平成 32 年(2020 年) 前期 : 平成 23 年度(2011 年度)～平成 27 年度(2015 年度) 後期 : 平成 28 年度(2016 年度)～平成 32 年度(2020 年度)
まちづくりの主要課題	1 まちの活力の源となる若者・子育て層の定住 2 幅広い産業の進展 3 安全・安心のための地域のつながり 4 高齢社会にも対応できる公共交通体系の充実 5 都市基盤整備の推進 6 自然の共生と環境保全 7 効率的な行財政運営 8 協働への仕組みづくり
基本理念	1 地域資源を活かし、みんなで作るまちづくり 2 効率的な行財政運営で、実りの多いまちづくり
まちづくりのテーマ	「住みたい、住んでよかったと感じるまち」
将来像	「笑顔・元気 かがやく大竹」
まちづくりの基本目標	1 大竹を愛する人づくり 2 生活基盤が整ったまち 3 安全なまち 4 安心できるまち 5 心にゆとりを感じるまち 6 行政・社会の仕組みづくり
主要指標	1 総人口 2 市内企業従事者の市内定住者の割合 3 「暮らしやすい層」の市民 4 「幸せ感」に関するポイント

2

大竹市の現況と課題



土地利用の 基本方向

計画的な土地利用

市街地においては、土地の高度利用や低未利用地の有効利用を促進し、合理的で効率的な計画性のある都市的土地利用を進めます。

それ以外の地域においては、自然環境システムの維持に配慮しつつ、農林産物生産機能、国土保全機能、自然・大気などの環境保全機能が永続的に発揮されるよう総合的で計画的な整備・充実を促進し、都市的土地利用との適切な配置と組み合わせにより、調和の保たれた自然的土地利用を進めます。

各地域の特性を活かした土地利用

本市は、自然的・地理的・社会的・経済的・歴史的・文化的な要素を踏まえると、「沿岸地域」、「内陸地域」、「島しょ地域」、「自然維持地域」に大別でき、地域ごとに条件の異なる変化に富んだ優れた特性を有しています。

各地域の特性を活かしながら、子どもから高齢者まで、市民1人ひとりが不便を解消し、安全に、安心して生活できる方向で自然環境と調和しながら、住環境や都市基盤の整備を進め、均衡ある市域の土地の発展を促進します。

土地利用の質的向上

適正で計画的な土地利用を通じて土地の安全性・快適性を高めるため、土地利用の質的向上を促進します。

公害の防止や三倉岳・蛇喰磐・弥栄峡に代表される優れた自然環境の保全、亀居城跡・大竹祭など貴重な歴史的風土や地域文化の保全、美しい景観の保全・形成、市民のニーズに対応した憩いの場の創出などに努めるとともに、各地域の自然的・地理的・社会的・経済的・歴史的・文化的条件に即した快適で健康的な生活を支える市域の土地の形成を促進します。

また、災害に対する地域の特性を踏まえた適正利用を誘導するほか、流域治水対策など被災時を最小化する「減災」の考え方を導入することにより、市域の土地の安全性を総合的に高めていきます。

さらに、地球温暖化が進むなか、環境負荷の軽減に努め、循環と共生を重視した土地利用を進めます。

市域の土地利用の総合的な管理

土地については、生活や生産の基盤であるとともに、防災や環境、景観など多様な側面を有しており、また、所有者だけでなく、NPOや事業者、行政等、多くの人々が関わりを持つようになってきています。

このため、その利用にあたっては、地域の実情に即したものとなるよう合意を形成するとともに、地域の主体的な取り組みを進めるほか、土地利用の影響の広域性を踏まえて地域間を適切に調整するなど、量的調整、質的向上と合わせて総合的な管理を進めます。



地域別の土地利用の方向

沿岸地域

市街地再開発事業や道路、公園などの都市基盤整備や住環境整備を進め、快適で住みよい地域づくりを目指します。

中心市街地の活性化や環境に配慮した工業地域の形成を促進し、都市環境の改善と向上に努めます。

内陸地域

自然志向の高まりを背景に、自然環境との共生を前提に観光レクリエーション活動の場として、自然資源の有効利用に努めます。

また、農村地域の農業生産活動を支えるため、優良農用地の保全や営農環境の改善に努めるとともに、快適な農村生活の場の提供に努めます。

既存住宅地周辺地域では、今後も新たな住宅地が供給されていくことが考えられるため、計画的な地域づくりに努めます。

島しょ地域

離島振興計画に基づき、水産業地域として活性化を促進するとともに、恵まれた自然環境を活かし、観光レクリエーション活動の場として有効利用に努めます。

自然維持地域

高い評価を有する原生的な自然環境や野生生物の重要な生息・生育地、すぐれた自然の風景地である三倉岳県立自然公園特別地域や阿多田島長浦自然海浜保全地区は、自然環境を維持すべき地域として、自然環境の保全に努めます。

適正な管理のもとで、自然体験・学習などの自然とのふれあいの場としての利用を促進します。

■地域別土地利用方向のイメージ図





2 大竹市の現況と課題

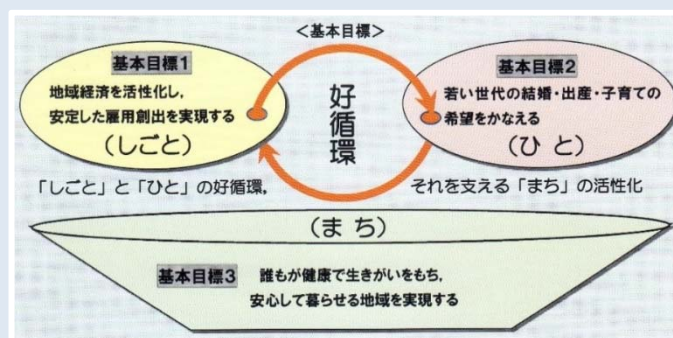
3) 大竹市まち・ひと・しごと創生 総合戦略

大竹市まち・ひと・しごと創生 総合戦略 (平成 27 年(2015 年)10 月)

対象期間	平成 27 年度(2015 年度)から平成 31 年度(2019 年度)までの 5 年間
目的と位置付け	「大竹市人口ビジョン」で示す将来人口の見通し以上の成果を得るための、今後 5 年間の目標及び実現に向けた方向性と具体的な施策
基本理念とめざす姿	<p>最上位計画である第五次大竹市総合計画(わがまちプラン)に掲げているまちづくりの理念や基本目標を前提としたため、総合戦略の基本理念は、わがまちプランのまちづくりのテーマに従う</p> <p>『基本理念：住みたい、住んでよかったと感じるまち』</p> <p>○大竹市を愛する人を増やし、「住んでみたい・住みたい・将来戻りたい」と思う市民を増やす</p> <p>○地域資源を活かし、主体性を持つ人を増やし「住んでよかった」と思う市民を増やす</p> <p>○周辺市町との連携も含め、効率的で魅力的なまちを目指し「住みやすい」と思う市民を増やす</p>

分野	大竹市総合戦略			国の総合戦略
	視点	⇒	基本目標	基本目標との関連性
しごと	働く場があること、働く場が近いことは定住を考える時の要素のひとつ	⇒	1 地域経済を活性化し、安定した雇用創出を実現する	① 地方における安定した雇用を創出する
ひと	子育て支援の充実は、「生み・育てることへの不安」を軽減させる要素のひとつ	⇒	2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
まち	「住んでみたい・住み続けたい」と思えるまちづくりは、持続可能性を向上	⇒	3 誰もが健康で生きがいをもち、安心して暮らせる地域を実現する	② 地方への新しい人の流れをつくる ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

基本目標の関係性





(3) 市民意識調査・ワークショップ

本計画に、市民や若い世代のまちづくりに対する意向を反映するために、市民アンケート・高校生アンケートを実施するとともに、大竹、小方、玖波地域で、まちづくりワークショップを開催しました。

また、本市の若手職員が、大竹市の将来都市像について話し合う「職員ワークショップ」を開催しました。

1) 市民アンケート

①市民アンケート概要

実施時期	平成 29 年(2017 年)1 月
配布・回収方法	郵送による配布・回収
調査対象者	大竹市内在住の 18 歳以上の男女
配布数	2,000 票
回収数	549 票（※有効票 543 票） 回収率：27.5%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ●個人属性（性別・年齢層・職業・居住地・居住年数） ●居住地域の満足度と重要度に関する設問 ●大竹市の理想の将来イメージ像に関する設問 ●大竹市で取り組みを希望する事項に関する設問 ●居住地域で取り組みを希望する事項に関する設問 ●まちづくりの進め方の意向に関する設問 ●大竹市のまちづくりに関する自由意見



2 大竹市の現況と課題

②市民アンケート結果

居住地における暮らしや生活環境についての満足度と重要度の関係性を表したものを、以下に示します。

～凡例～

1) 自然の豊かさや環境保全の状況	2) まちなみや景観の整備状況
3) 治安のよさや防犯対策の状況	4) 自然災害等に対する防災体制
5) 雇用機会や働く場 (やりたい仕事に就く機会が身近にあるかどうか)	6) 地域経済の状況 (商工業、農林水産業、観光業などの地域の産業の状況)
7) 日常の買い物の利便性	8) ショッピングを楽しめるような多様な商店等の集積
9) 病院や診療所などの施設や医療サービスの状況	10) 公園や水辺・親水空間(水とふれあえる場)の整備の状況
11) 文化や教養活動・レジャーのための施設やサービスの状況	12) 安全に歩ける歩行空間や自転車空間の整備の状況
13) 公共交通(鉄道、バス等)の利便性	14) 生活道路や幹線道路の整備の状況
15) 子供の遊び場や保育所など子育てのための施設やサービスの状況	16) 居住地域内での学校教育の機会
17) 高齢者等にとって暮らしやすいような地域のバリアフリー (障害や障壁を排除した施設や工夫)の状況	18) 介護・福祉のための施設やサービスの状況
19) 地域の人々のつながりや地域のコミュニティの状況	20) まちの魅力やにぎわいに富んだ地域社会の状況
21) 地域の伝統文化の保護・活用の状況	22) 上・下水道、し尿、ゴミ処理などの生活環境施設
23) 情報通信基盤の状況	

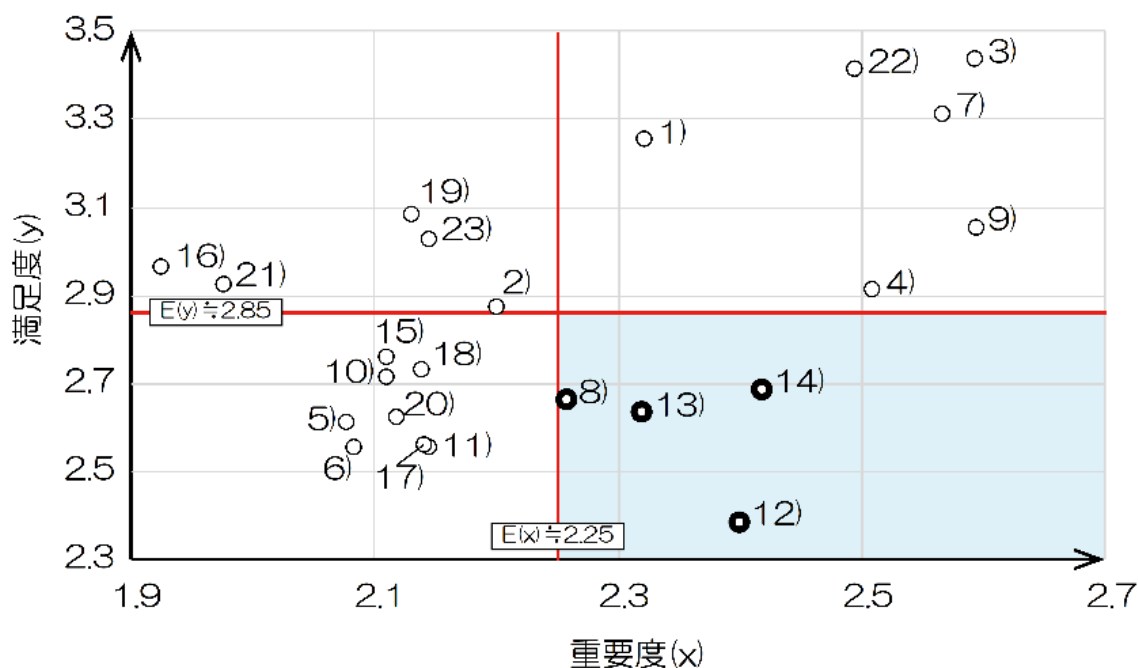


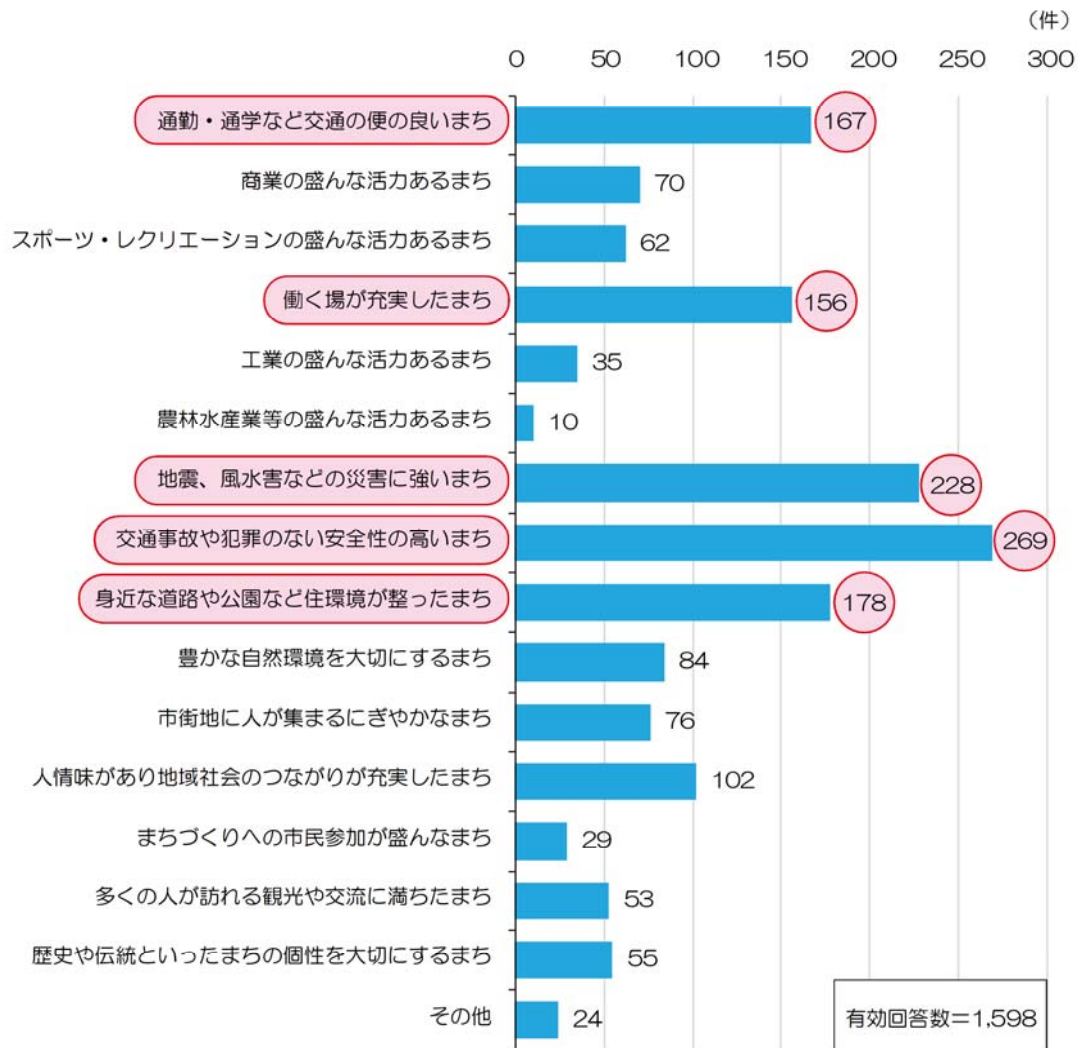
図 居住地における満足度と重要度の関連図

市民の満足度と重要度の平均値による関連図では、右下のエリアが【満足度が低く重要度が高いエリア】となります。

項目としては、「8) ショッピングを楽しめるような多様な商店等の集積」「12) 安全に歩ける歩行空間や自転車空間の整備の状況」「13) 公共交通(鉄道、バス等)の利便性」「14) 生活道路や幹線道路の整備の状況」がプロットされており、これらの項目について、満足度を上げる取り組みが求められています。



○大竹市の理想の将来像



大竹市の理想の将来像で最も多い回答項目は「交通事故や犯罪のない安全性の高いまち」でした。次に多い項目が「地震、風水害などの災害に強いまち」で、続いて「身近な道路や公園など住環境が整ったまち」「通勤・通学など交通の便の良いまち」「働く場が充実したまち」という結果になりました。

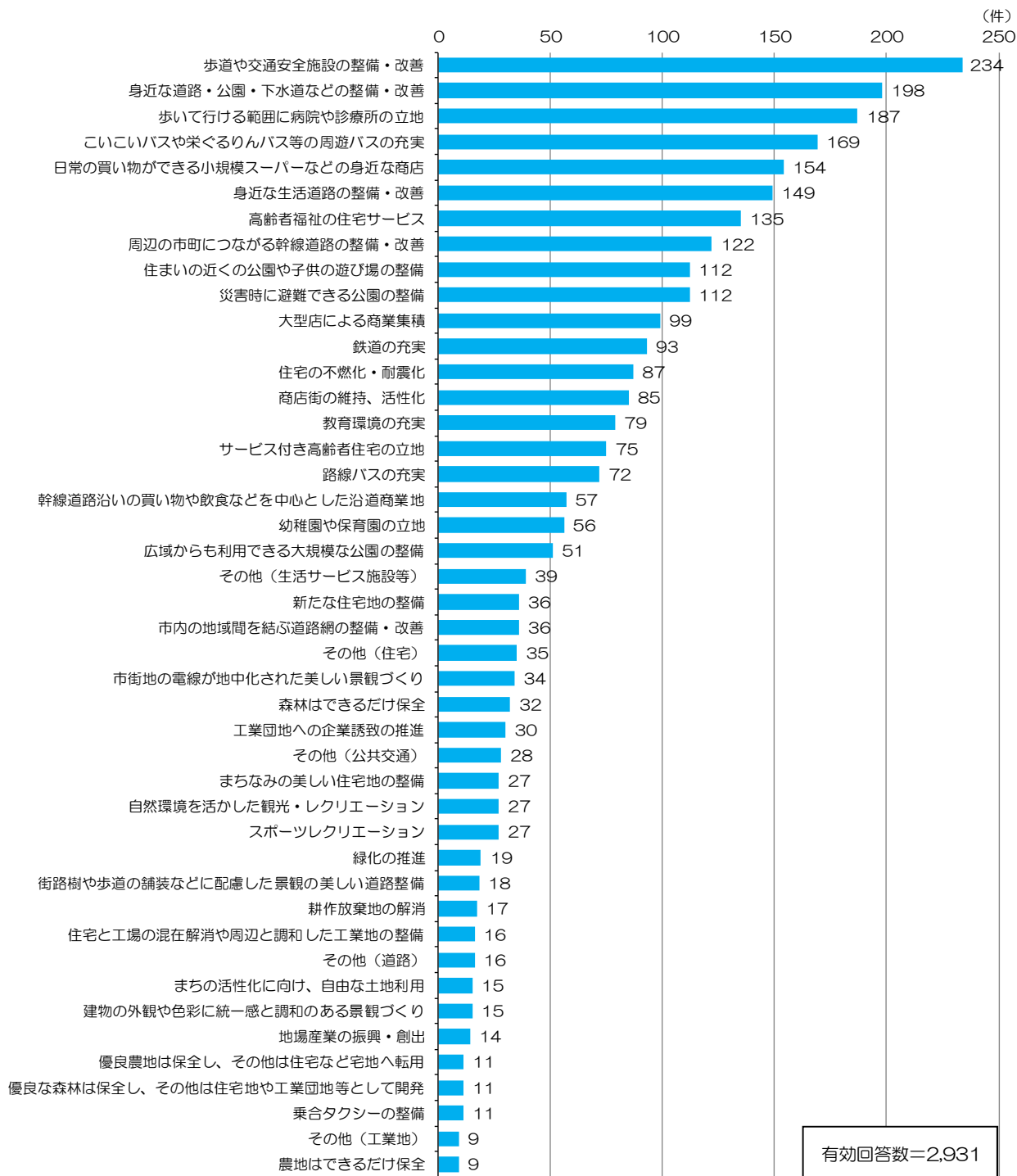


2 大竹市の現況と課題

2

大竹市の現況と課題

〇まちづくりで特に取り組んでほしいこと



特に取り組んでほしいことで最も多い回答項目は「歩道や交通安全施設の整備・改善」でした。次に多い項目が「身近な道路・公園・下水道などの整備・改善」で、続いて「歩いて行ける範囲に病院や診療所の立地」「こいこいバスや栄ぐるりんバス等の周遊バスの充実」という結果になりました。



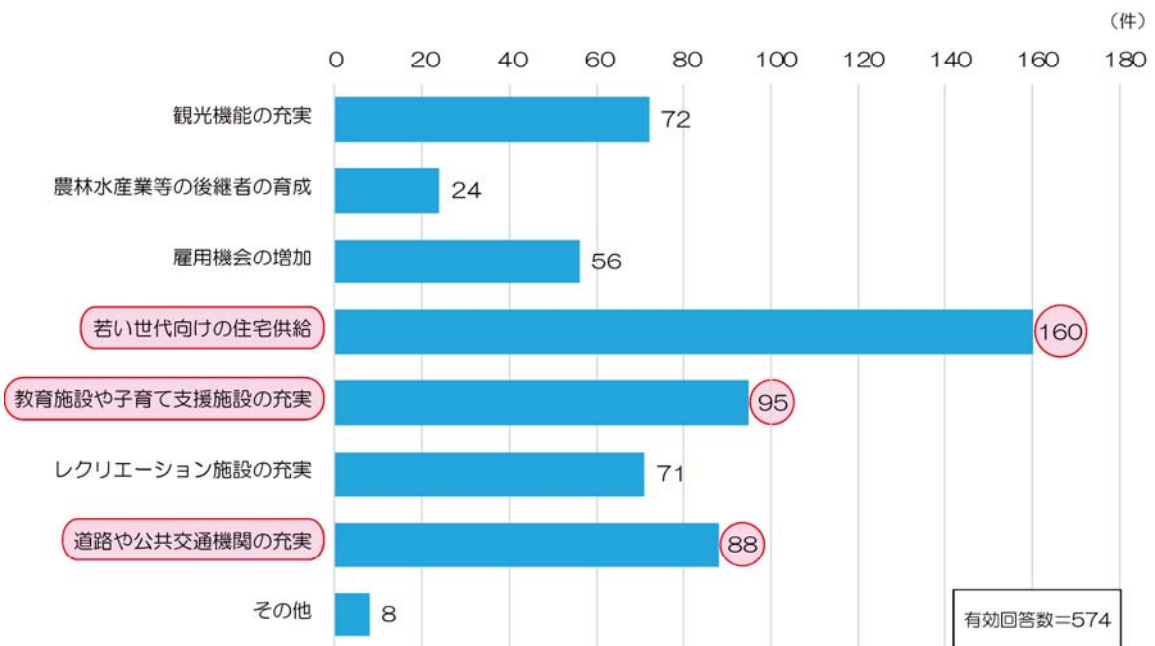
2) 高校生アンケート

①高校生アンケート概要

実施時期	平成 28 年(2016 年)12 月
配布・回収方法	直接配布・回収
調査対象者	広島県立大竹高校2年生, 3年生
配布数	346 票
回収数	343 票(※有効票 330 票) 回収率: 99.1%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ●個人属性 ●大竹市における自身の将来に関する設問 ●大竹市の理想の将来イメージ像に関する設問 ●大竹市での若い世代の定住に関する設問 ●大竹市のまちづくりに関する自由意見

②高校生アンケート結果

○若い世代が定住するために必要なこと

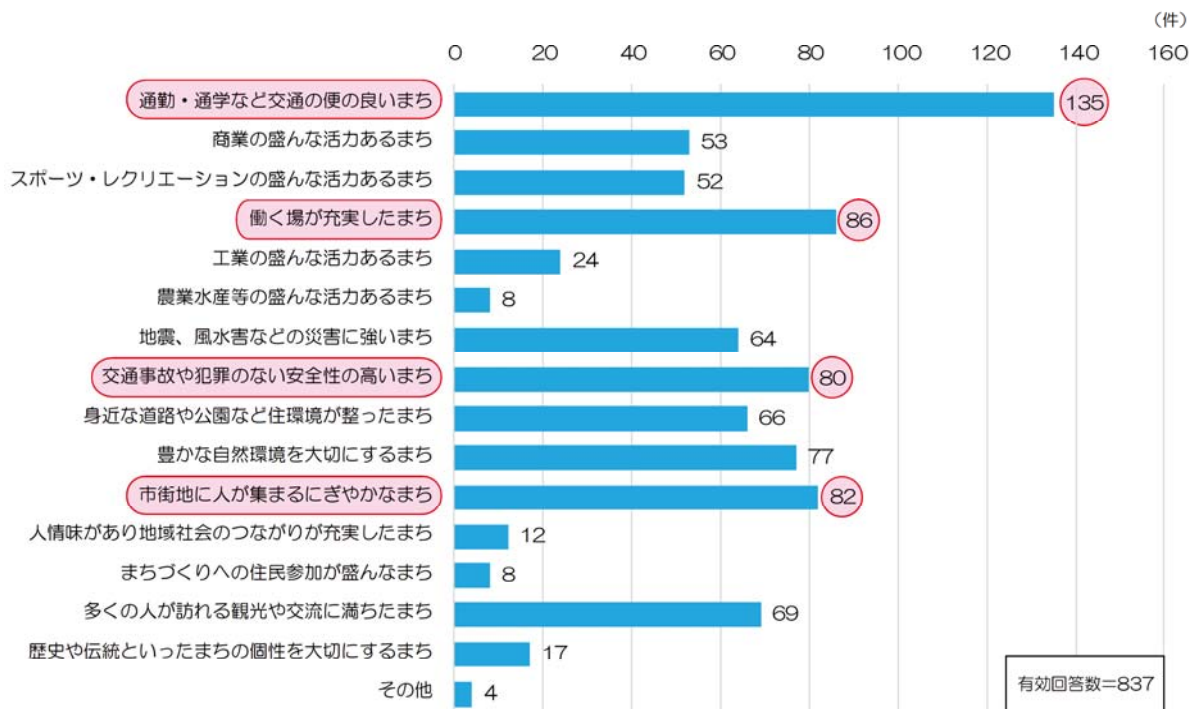


若い世代が定住するために必要なことについての最も多い回答項目は「若い世代向けの住宅供給」という結果となりました。次に意見の多かった「教育施設や子育て支援施設の充実」も含めて、居住及び定住後の積極的な支援を行政へ求めていることがわかりました。また、「道路や公共交通機関の充実」を挙げる声も多く、若者世代の定住のためには、現在の道路・公共交通機関の状況を改善する必要があることがわかりました。



2 大竹市の現況と課題

○大竹市の理想の将来像



大竹市の理想の将来像として「通勤・通学など交通の便の良いまち」を挙げる声が非常に多く、現在の大竹市において利便性の向上が必要と考えている学生が多い結果となりました。次に多かった項目が「働く場が充実したまち」「市街地に人が集まるにぎやかなまち」「交通事故や犯罪のない安全性の高いまち」であり、雇用の充実やまちのにぎわい、安全性向上など、交通便利性向上も含めて日常生活における都市機能の充実が求められている結果となりました。

大竹市の理想の将来像は、市民は防災・防犯対策など安全性が高く、住環境の整ったまちとなることを理想としていますが、高校生は交通便利性の向上や雇用の充実、市街地の活性化など、まちの賑わいを重視する傾向にあることがわかりました。

【若い世代が定住するために必要なこと】でも「道路や公共交通機関の充実」と答えている意見が多く、高校生が大竹市の課題として交通便利性の向上を挙げていることがわかりました。



3) まちづくりワークショップ

①まちづくりワークショップ概要

実施時期	平成29年(2017年)7月27日～29日
開催場所	大竹会館(大竹地域) 晴海臨海公園管理棟(小方地域) 玖波公民館(玖波地域)
対象者	16歳以上で、市内在住・勤務・通学者
内容	住んでいる地域において「残したいもの」「改善したいもの」「創りたいもの」を整理するとともに、今後のまちづくりにおいて配慮すべき、地域の強みと弱みについて検討する。

②ワークショップ結果

公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・大竹駅再開発，駅東口整備（大竹地域） ・大竹駅のエレベーター等の施設整備（大竹地域） ・小方新駅の設置（小方地域） ・玖波駅に東西自由通路の設置（玖波地域） ・トイレや看板など駅施設の整備（玖波地域） ・ショッピングモールへのアクセス改善（玖波地域） ・コミュニティバスの増便や乗り合いタクシーの整備（玖波地域） ・踏切の改善（玖波地域）
都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ・さかえ公園のイベントの継続（大竹地域） ・大竹港の活用方法の検討（大竹地域） ・道路の拡幅，環境整備（大竹地域） ・若者向けの空き家，空きアパートのリノベーション（大竹地域） ・子育て支援の強化，施設の整備（大竹地域） ・様々な利用用途のある公園の整備（小方地域） ・映画館，温泉，市民プール等の娯楽施設の整備（小方地域） ・民泊も含めた宿泊施設の整備（小方地域） ・お産のできる病院の確保（小方地域） ・公立幼稚園の設置（小方地域） ・旧小中学校等の遊休地の利活用（小方地域） ・コンビニやスーパーなど，日々の買物ができる店舗の誘致（玖波地域） ・医療（歯・内科），介護施設の保持（玖波地域） ・市営住宅や社宅など企業未利用地の利活用（玖波地域） ・玖波青木線，大竹湯来線等の整備（玖波地域） ・玖波発電所の保全（玖波地域）



2 大竹市の現況と課題

2

大竹市の現況と課題

<p>自然環境保全・ 景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルが舞う環境の保全（小方地域） ・河川，公園，道路の美化（小方地域） ・山林の整備（小方地域） ・亀居城と大竹港，雁木等の景観の保全（小方地域） ・自然景観やまちなみ景観の保全（玖波地域） ・恵川的美観整備（玖波地域） ・イリコ生産場跡や名産のイリコ，シラオオ等の保全（玖波地域） ・貝堀りできる砂浜の保全（玖波地域）
<p>観光</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の創出，雇用促進（大竹地域） ・亀居城，アンテナショップ等の観光施設の整備（大竹地域） ・西国街道の整備，保全（小方地域） ・道の駅の設置及び外部へのPR（小方地域） ・大竹夜景のツアー等の実施（小方地域） ・登山者への看板及びパンフレット設置（玖波地域） ・錦龍の滝の山歩きルートの整備（玖波地域） ・寺社や史跡の保全（玖波地域） ・玖波漁港市場の保全（玖波地域）
<p>防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に避難可能な高層建造物の建設（大竹地域） ・排水溝やポンプ場の整備など，雨水対策の強化（大竹地域） ・防災無線，有線放送の整備（小方地域） ・津波対策の強化（小方地域） ・崖崩れ，土砂，浸水被害への対策改善（小方地域） ・避難場所，避難施設の見直し（大竹地域・小方地域） ・避難訓練や連絡系統の整備など，非常時における対策強化（小方地域） ・玖波駅前や地区内への外灯設置（玖波地域）
<p>自治会・ コミュニティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会のさらなる活性化（大竹地域） ・花火大会や黒川大歳神社，神楽奉納など地域の文化の継承（大竹地域） ・人々が集まれるコミュニティ施設の整備（大竹地域） ・黒川大歳神社，神楽奉納など，地域の文化の継承（小方地域） ・玖波公民館の建て替え（玖波地域） ・地区ごとの集会所や公民館の設置（玖波地域）



4) 職員ワークショップ

①職員ワークショップ概要

実施時期	平成29年(2017年)9月19日
開催場所	大竹市役所本庁大会議室
対象者	主任以下若手職員
内容	大竹市全体の将来のまちづくりの課題，将来像について検討する。

②職員ワークショップ結果

道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・一般国道2号の渋滞緩和・自転車通行帯の整備 ・玖波青木線の渋滞緩和，拡幅 ・JRと一般国道2号の東西方向の横断の改善 ・通学路の整備
医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の統合や，小中学校の統廃合など，施設の適切な配置 ・産科など，医療施設のさらなる充実
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーやレジャー施設等の商業施設の誘致 ・工場の夜景スポットの活用 ・港湾機能の強化等，企業活動の促進
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設等の整備を通じた，宮島・錦帯橋観光客の誘客 ・阿多田島観光の誘客 ・手すき和紙や神楽，農林漁業体験を通じた観光誘客 ・新幹線沿線でのPR看板設置など，市の効果的なアピール ・道の駅での特産品PR
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水対策



2-2 都市づくりの課題の考え方

(1) これからの都市づくりにあたっての留意点

現在の我が国は、人口増加期を終え、人口減少・少子化・超高齢社会の時代にありません。この様な中で、経済社会構造の急激な変化への対応が求められています。

これまでの都市計画は、人口増加期に伴う無秩序な市街化の拡大が問題となり、それを法で抑制する「規制による都市のコントロール」を主に行ってきました。

しかし、近年の少子化・超高齢社会の時代を背景に、都市計画が担う役割も変化しており、人口減少時代に対応した都市計画とする必要があります。人口減少期にあっても、都市の無秩序な開発の可能性はなくなりません。そのため、居住や都市機能の誘導と、都市のコントロールの双方からアプローチできる「規制と誘導による都市計画」が求められる時代に 있습니다。また、高齢化が今後もさらに進むことで、自動車の運転が困難な高齢者が増えることが予測されます。

本市においても、市街地が比較的コンパクトにまとまっている地理的特性を生かして、医療・福祉・商業等の都市機能を公共交通で結び、コンパクト・プラス・ネットワークの考えに基づいた都市づくりを目指す必要があります。

このように、今後の都市づくりにおいては、個々の問題を解決していく姿勢から、他の政策手段と連携して主体的に取り組む姿勢(ポジティブ・プランニング)への変化が求められています。

(2) 本市が進めるまちづくり事業との関係

本市では現在、大竹駅周辺の整備を進めています。今後は、駅東側からの利便性の向上と、それに伴う賑わいの再生が期待されています。

大竹駅と玖波駅の間では、小方新駅の設置も検討しています。新駅の設置は、地域の利便性や生活環境を大きく向上させるだけでなく、市全体にとっても大きな変革をもたらすものとなります。

また、小方地区では「小方地区のまちづくり基本構想」を策定し、「住みたくなるまち」「子育てが楽しくなるまち」「みんなが集いにぎわうまち」「地域の魅力が輝くまち」を基本方針として、小方地区のまちづくりが大竹市全体の魅力的なまちの形成につながるよう取り組んでいます。

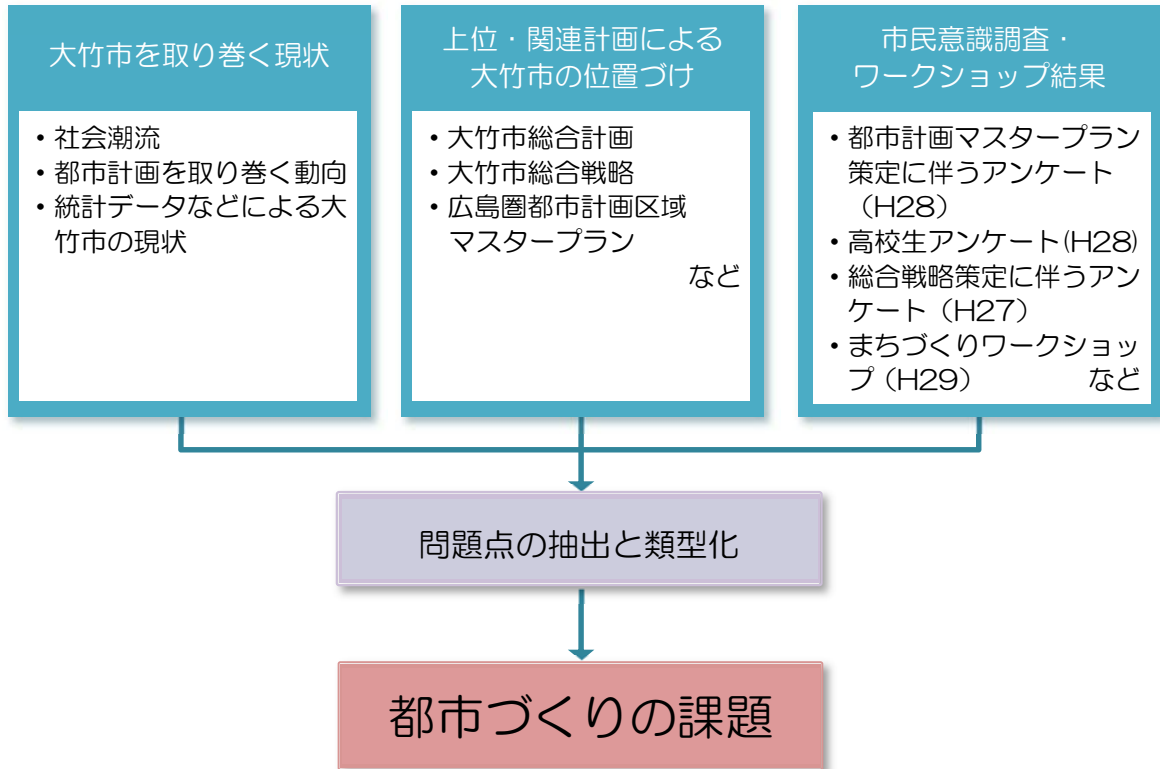
晴海臨海地区では、商業施設の立地や晴海臨海公園の整備を進めているところですが、今後も市の活力向上に寄与する民間施設の誘致を進めていきます。

山陽自動車道とともに広域ネットワークを形成する一般国道 2 号岩国大竹道路は、国道 2 号の交通混雑の緩和や交通安全の確保、広域的な連携・交流を図ることを目的として、現在整備が進められています。

このように、本市はこれからも様々なまちづくり事業を進めていきますが、都市づくりは、これらの事業背景を踏襲し、地域ごとの問題を解消するための都市構造を実現していく必要があります。

(3) 都市づくりの課題の考え方

多面的な観点で都市づくりの課題整理を行うため、都市づくりの要素別に「大竹市を取り巻く現状」「上位・関連計画による大竹市の位置づけ」及び「市民意識調査・ワークショップ結果」による問題点や課題等を簡潔に整理した上で、都市づくりの課題を次のように設定します。

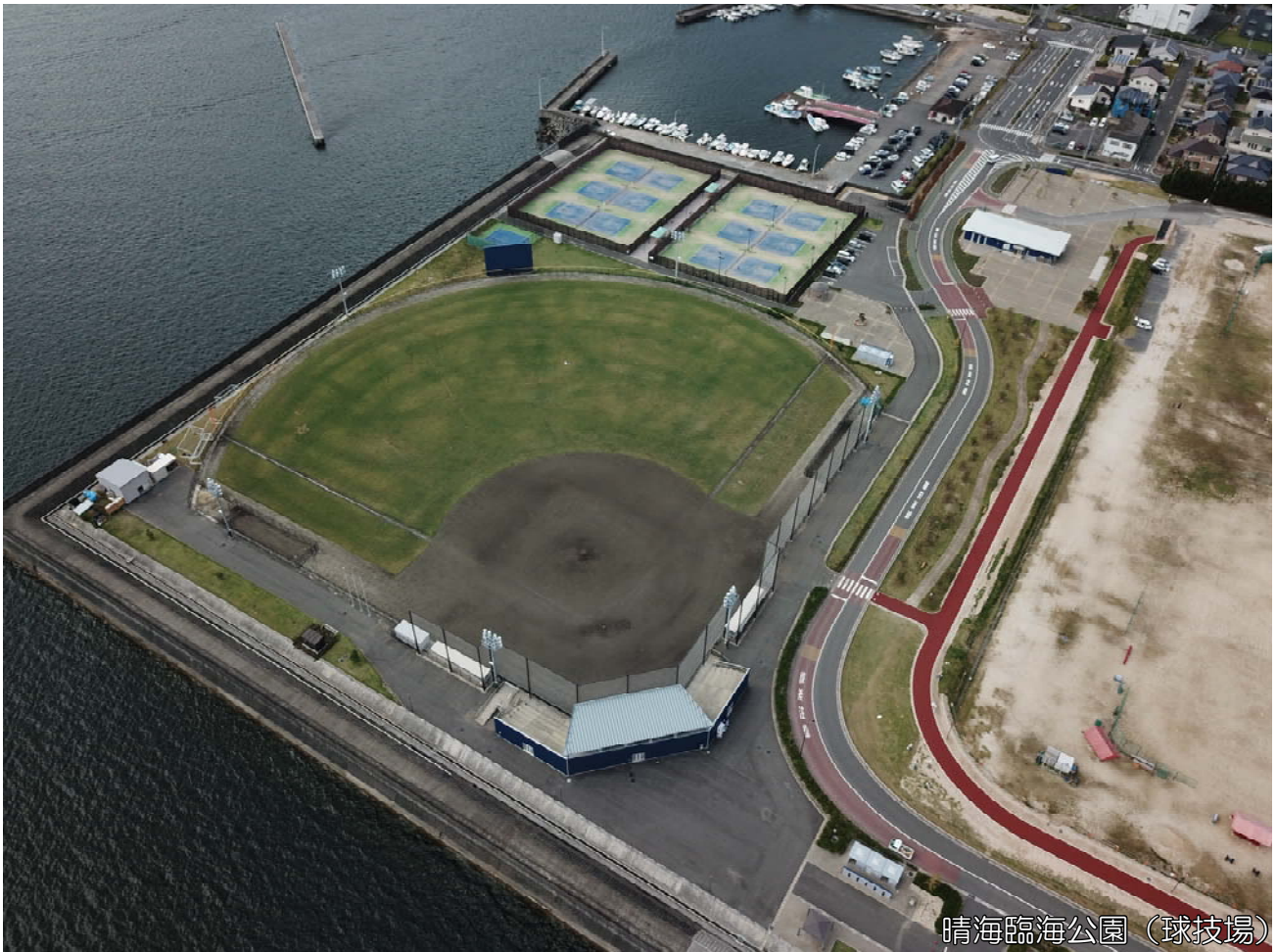




大和橋



苦の坂の峠



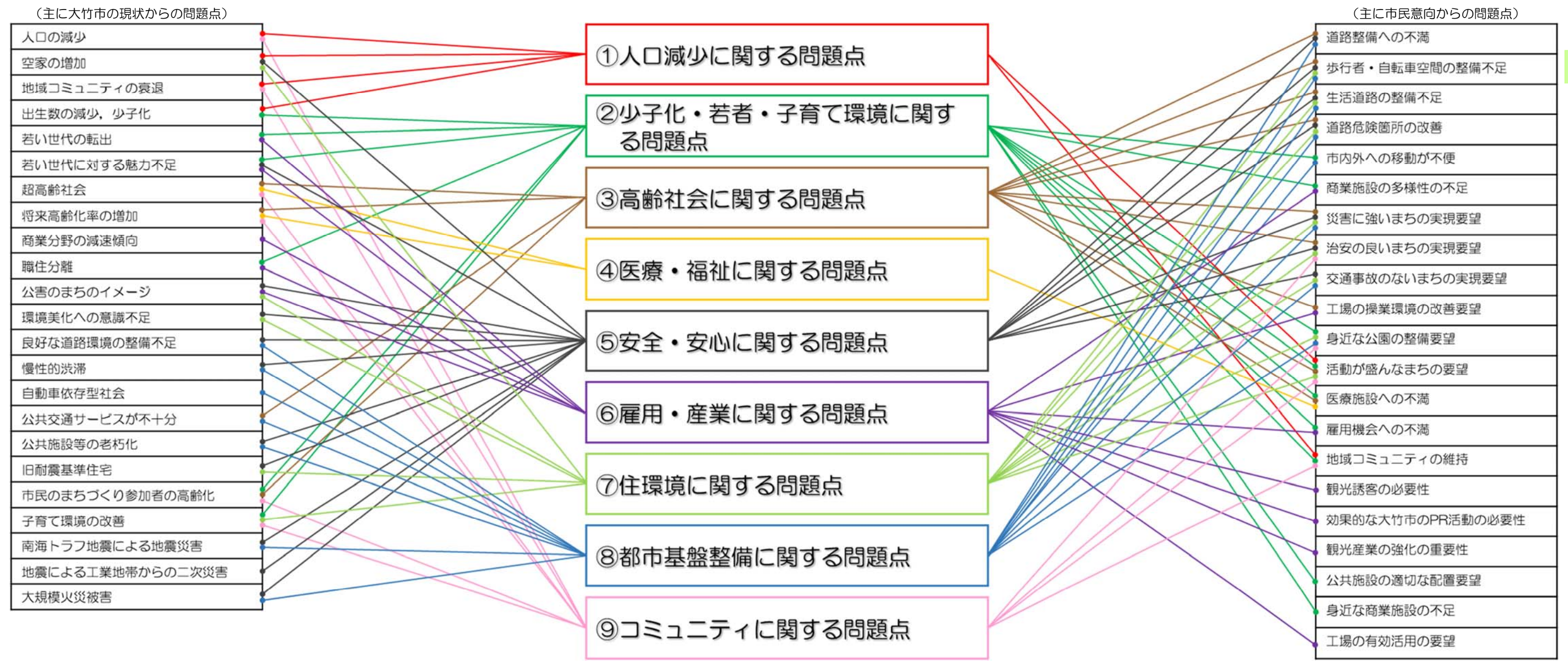
晴海臨海公園 (球技場)



項目	大竹市を取り巻く現状		上位関連計画による大竹市の位置づけ	市民意識調査・ワークショップ結果	都市づくりの問題点
	社会潮流・都市計画を取り巻く動向	統計データ等による大竹市の現状			
1.人口動態・将来都市像	<ul style="list-style-type: none"> ■人口減少・超高齢社会の到来 ■既存産業の高付加価値化 ■安全・安心への意識の高まり ■地球環境問題の顕在化 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は昭和50年(1975年)から年々減少傾向にある。 ・世帯数は微増傾向で、1世帯あたりの人員は年々減少している。 ・平成12年(2000年)時点で高齢化率が21.8%に達しており、非常に早いペースで高齢化が進んでいる。 ・年少人口数は、昭和50年(1975年)以降減少し続けている。 ・自然動態は、平成11年(1999年)に死亡超過に転じて以降、自然減少幅が増加。社会動態は転出超過で社会減が続いている。※平成25年(2013年)ではわずかながら転入超過で社会増。 ・昼夜間人口比は、昼間人口>夜間人口であり、求心力がある都市といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■広島圏都市計画区域マスタープラン 【策定：広島県】(平成23年(2011年)9月) (広島圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針) 1. 活力を生み出すまちづくり 2. 持続可能なまちづくり 3. 個性あふれるまちづくり 4. 安全で安心なまちづくり 5. みんなで創るまちづくり ■第五次大竹市総合計画(わがまちプラン) 【策定：大竹市】(平成23年(2011年)3月) (将来像) 笑顔・元気 かがやく大竹 (まちづくりのテーマ) 住みたい、住んでよかったと感じるまち (基本目標) 1. 大竹を愛する人づくり 2. 生活基盤が整ったまち 3. 安全なまち 4. 安心できるまち 5. 心にゆとりを感じるまち 6. 行政・社会の仕組みづくり ■大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略 【策定：大竹市】(平成27年(2015年)10月) (基本理念) 住みたい、住んでよかったと感じるまち ○大竹市を愛する人を増やし、「住んでみたい・住み続けたい・将来戻りたい」と思う市民を増やす ○地域資源を活かし、主体性を持つ人を増やし「住んでよかった」と思う市民を増やす ○周辺市町との連携も含め、効率的で魅力的なまちをめざし「住みやすい」と思う市民を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・理想とする将来都市像は、「交通事故や犯罪のない安全性の高いまち」、「地震、風水害などの災害に強いまち」、「身近な道路や公園など住環境が整ったまち」を挙げる声が多く、特に安全充実型のまちを望む声が多い。 ・高校生などの若者世代からの意見では、「通勤・通学など交通の便の良いまち」を望む声が多く、生活充実型のまちを望む声が多い。 	<p>-主に大竹市の現状からの問題点-</p> <ul style="list-style-type: none"> 【人口の減少】 【空き家の増加】 【地域コミュニティの衰退】 【出生数の減少、少子化】 【若い世代の転出】 【若い世代に対する魅力不足】 【超高齢社会】 【将来高齢化率の増加】 【商業分野の減速傾向】 【職住分離】 【公害のまちのイメージ】 【環境美化への意識不足】 【良好な道路環境の整備不足】 【慢性的渋滞】 【自動車依存型社会】 【公共交通サービスが不十分】 【公共施設等の老朽化】 【旧耐震基準住宅】 【市民のまちづくり参加者の高齢化】 【子育て環境の改善】 【南海トラフ地震による地震災害】 【地震による工業地帯からの二次災害】 【大規模火災被害】
2.土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ■住環境と産業環境の両立 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の大部分は山林。 ・市街化区域では約55%が宅地(住宅用地、商業用地、工業用地)の利用。 		<ul style="list-style-type: none"> ・公共用地の遊休地や企業未利用地の利活用が求められている。 	
3.産業・市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ■産業が引き起こす様々な環境問題の改善に向けた継続的な取り組み ■きれいで快適なまちづくりの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内地域で有数の臨海工業地区を有する。 ・晴海地区、晴海工業地区、大願寺地区で地区計画を定めている。 ・本市での就業者は、40%以上が市外在住者となっている。 ・商業は、小売販売額、事業所数、従業者数ともに減少傾向である。工業は、製造品出荷額は増加傾向。事業所あたりの製造品出荷額は広島圏でも高い水準である。本市産業構造は製造業に特化している。 ・平成5年(1993年)以降住宅数は増加しているものの、それ以上に空き家が増加しており、特に平成20年(2008年)から平成25年(2013年)までの5年間で4.4ポイント増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 大竹を愛する人づくり 2. 生活基盤が整ったまち 3. 安全なまち 4. 安心できるまち 5. 心にゆとりを感じるまち 6. 行政・社会の仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングを楽しめるような多様な商店等の集積を希望する意見が多く挙がっている。 ・映画館などの娯楽施設の整備が求められている。 ・道路の拡幅や、様々な利用用途のある公園の整備が求められている。 ・観光客の誘客が必要という声がある。 ・看板設置や道の駅での特産品PRなど、本市の効果的なアピールが必要という声がある。 	
4.交通体系整備	<ul style="list-style-type: none"> ■インフラの老朽化 ■都市構造の見直し(都市機能のコンパクト化とネットワーク化) ■バランスのとれた職住環境の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路は、自動車専用道路1路線を含む計19路線を指定している。整備率は、計画延長35,060mに対し整備済み12,999mで約37%。 ・JR小方新駅の設置や岩国大竹道路の整備、JR大竹駅周辺整備事業といった、大規模な計画、整備が進行中。 ・鉄道利用者はJR山陽本線の大竹駅、玖波駅ともに、直近は横ばいの傾向。 ・コミュニティバスの運行により、JR大竹-玖波駅間等をつないでいる。 ・阿多田~小方航路により、小方地域-阿多田島をつないでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺市町との連携も含め、効率的で魅力的なまちをめざし「住みやすい」と思う市民を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般国道2号や玖波青木線の渋滞緩和が求められている。 ・身近な生活道路の環境整備を望む声が多い。 ・公共交通の利便性向上が求められている。 ・大竹駅周辺の再開発や駅付帯施設の充実が求められている。 ・コミュニティバスや乗り合いタクシーなど、公共交通の整備、充実が求められている。 ・小方新駅の設置が求められている。 ・通学路の整備が求められている。 ・自転車通行帯の整備が求められている。 	
5.緑の空間形成	<ul style="list-style-type: none"> ■都市における環境負荷の低減と自然との共生 ■高齢社会に向けた快適に暮らせる生活環境の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の都市公園は58箇所が供用開始。晴海臨海公園はもっとも大きく、約12.76haの面積を有している。 ・1人あたり公園面積は約10.3㎡であり、隣接する岩国市と同程度、廿日市市より若干大きくなっている(和木町は、八幡山公園や蜂ヶ峯総合公園等の広大な公園を有しており、突出している)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活が便利で、移動環境の満足度が高いまちの実現 ・持続可能な地域公共交通サービスが暮らしを支えるまちの実現 ・地域公共交通を利用・応援する市民意識が高いまちの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な公園整備が求められている。 ・豊かな自然の保全を望む声が多い。 	
6.都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ■地域主体のまちづくり・地域コミュニティの維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・国登録有形文化財(阿多田島灯台資料館)などの文化財が現存している。 ・三倉岳や蛇喰磐など、自然を活かした観光資源も豊富に存在する。 ・工場が集積している地域では、工場夜景のスポットが各所にあり、都市の景観を構成する要素となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総延床面積を30年間で20%削減する。(インフラ施設目標) ・総量の削減は目標とせず基本方針に則った取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然景観やまちなみ景観の保全が求められている。 ・河川、公園、道路の美化が求められている。 ・大竹夜景のツアー等の実施が求められている。 	
7.その他の都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくりを担う市民の高齢化 ■防災・減災を意識した都市づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道の人口普及率は、平成29年度(2017年度)時点で94.7%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【策定：大竹市】(平成29年(2017年)3月) (基本目標) ・空家等の適正管理により地域の安全確保と生活環境、まちの景観の保全を図り、老朽化等が著しい空家等の速やかな除却と有効活用を促進するため、総合的な空家等対策を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内での病院や診療所の立地を望む声が多く挙がっている。 ・子育て支援の強化、施設の整備が求められている。 ・保育所の統合や、小中学校の統廃合など、施設の適切な配置が求められている。 	
8.防災	<ul style="list-style-type: none"> ■旧耐震基準住宅への耐震診断の実施 ■密集住宅地の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市で想定される災害は、南海トラフ巨大地震、集中豪雨、高潮、洪水、津波、密集市街地での大規模火災等。 ・土砂・浸水、地震及び津波ハザードマップを作成済み。 	<ul style="list-style-type: none"> ■小方地区のまちづくり基本構想 【策定：大竹市】(平成29年(2017年)3月) (基本理念) 気になる大竹、気になる大竹 -小方“宝箱”構想- 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・風水害などの災害に強いまちづくりや、交通事故や犯罪のない安全なまちづくりを望む声が多い。 ・様々な災害への対策が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【医療施設への不満】 【雇用機会への不満】 【地域コミュニティの維持】 【観光誘客の必要性】 【効果的な大竹市のPR活動の必要性】 【観光産業の強化の重要性】 【公共施設の適切な配置要望】 【身近な商業施設の不足】 【工場の有効活用の要望】

2-3 都市づくりの問題点と課題

本市における問題点をより明確に把握するため、問題点の類型化を行い、都市づくりの主要課題を設定します。



【都市づくりの主要課題の設定】

- 課題 1. 都市機能の強化と公共交通ネットワークの形成 (問題点の類型化①②③④⑤⑧から)
- 課題 2. 雇用の場と住環境の形成 (問題点の類型化①②③⑤⑥⑦⑧から)
- 課題 3. 安全・安心の創出 (問題点の類型化①②③④⑤⑦⑧⑨から)
- 課題 4. 地域コミュニティの維持発展 (問題点の類型化①②③⑤⑦⑨から)